

通信教育と生涯学習に関するアンケート

公益社団法人日本通信教育振興協会
アンケート調査委員会

アンケートの目的

生涯学習センター等生涯学習の現場で学ぶ者たちに対応している担当者の方々が、通信教育という学習スタイルをどう認識しているのか、また当協会認定の学習指導員が地域で活動する際に、施設側の対応はどのようになっているのかを調査することが主要な目的である。

実施日	2018年3月23日(金)	
回答締切	2018年5月31日(木)	
対象	全国の生涯学習センター、交流センター、公民館、教育委員会等	
対象数	合計	536施設
	郵便不着	3
回収数	32	
	回収方法	郵便 28
		FAX 4
回収率	5.97%	(=32/536*100)

集計結果と分析

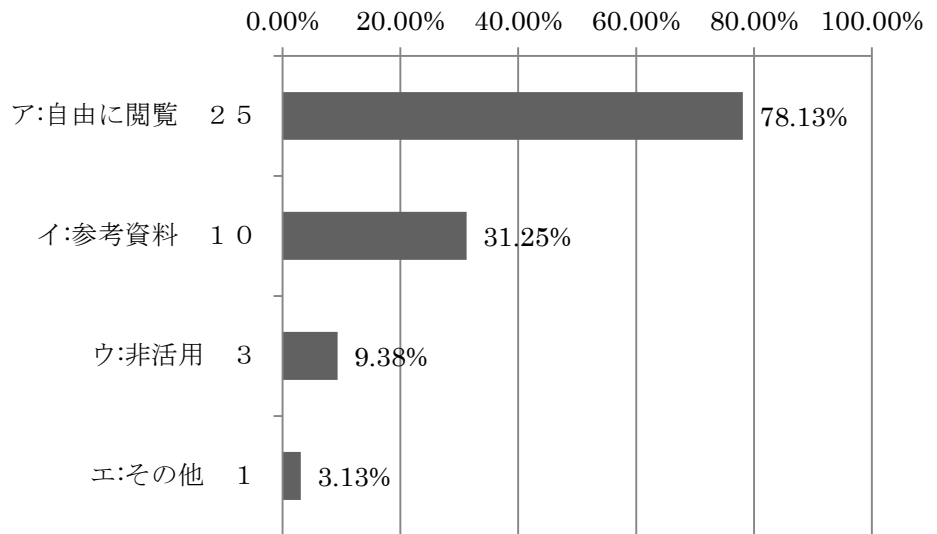
質問項目

1. 「ご案内」の活用方法

当協会から毎年送付している「生涯学習奨励講座&優良受験指導講座のご案内」を貴所ではどのように活用していただいていますか。あてはまるものに☑を付けてください。(複数回答可)

- ア：陳列棚等において自由に閲覧
- イ：担当者の参考資料として利用している。
- ウ：活用をしていない
- エ：その他

回答結果 回答数 32 複数回答あり



分析

「生涯学習奨励講座&優良受験指導講座のご案内」は毎年、全国の生涯学習センターや教育委員会に送付しており、その利用状況は、ア：自由に閲覧、イ：参考資料として活用の回答数が多かった。非活用は回答者の 9.38%であり、おおよそ本冊子が何らかの方法で活用されていることを確認できた。

質問項目

2. 通信教育についての問い合わせの有無

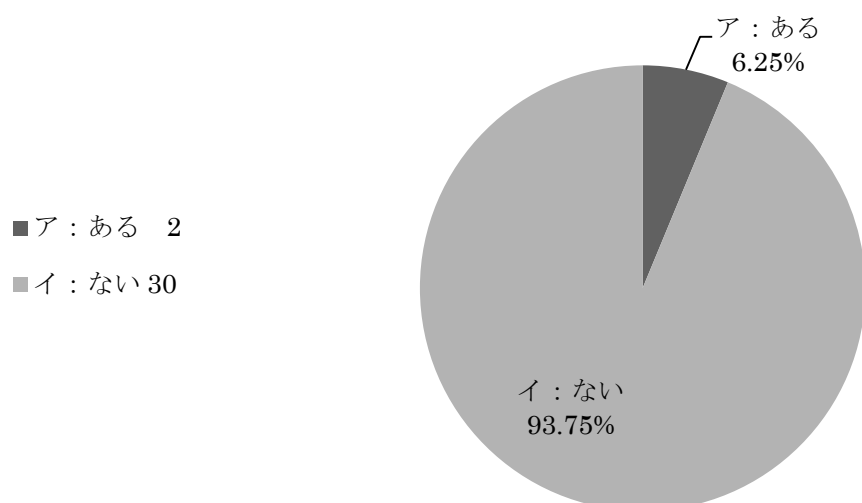
貴所において、様々な学習相談がある中で、通信教育に関する問い合わせがありますか。あてはまるものに☑を付けてください。

ア：ある

それはどのような内容ですか（学びたい分野の通信講座の紹介、通学教室と通信講座の長所短所の説明など）

イ：ない

回答結果 回答数 32



ア：ある と回答した中で、具体的に内容を答えた者が2件あった。その内容は

- ・通信講座の種類や内容、講座の難易度、受講料、入退会の方法など
- ・放送大学関連

分析

生涯学習を提供する現場において、利用者から通信教育に関しての問い合わせがあるのかを質問したが、問い合わせがないと回答した割合は 93.75 パーセント。開講している様々な講座や教室を差し置き、あるいは補助的に通信教育という別の学習機会での学習を望むものが少ないということであろうか。」

質問項目

3. 地域の生涯学習振興への通信教育の役割

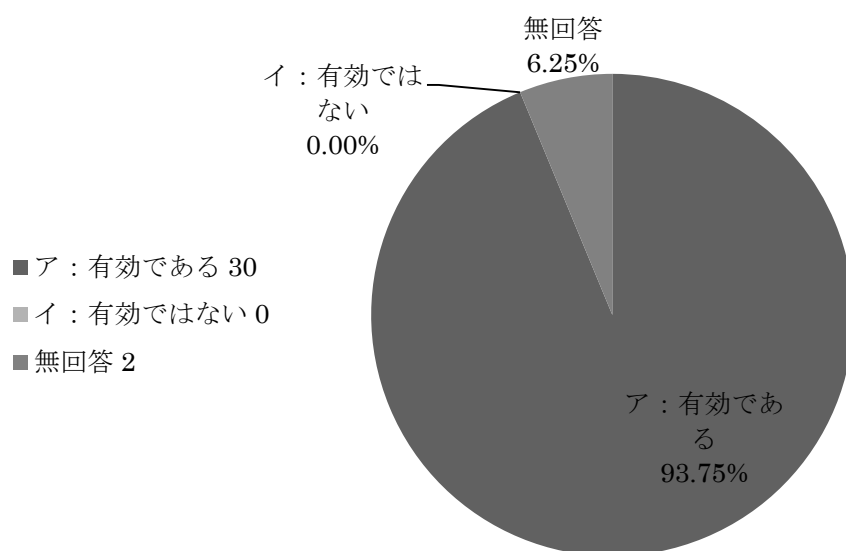
いつでも、どこでも、誰もが学べる通信教育は、生涯学習社会における果たす役割も大きなものかと思われます。貴地域における生涯学習振興のために住民の方々に大いに紹介していただきたいと考えます。

あなたは、通信教育での学習は大いに有効であるとお考えですか。あてはまるものに☑を付けてください。

- ア：有効である
- イ：有効ではない

(その理由_____)

回答結果 回答数 30 無回答 2



分析

この質問は、生涯学習センターや教育委員会の生涯学習担当者に対して行ったもので、全回答者の93.75%にあたる30名が、通信教育による学習は大いに効果があると考えている。

質問項目

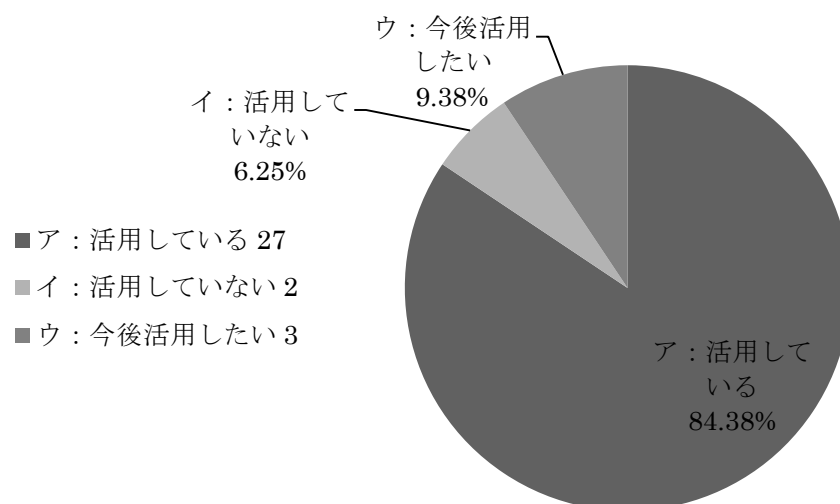
4. 住民の講師活用

貴地域においては、行政の主催する出前講座等の他に、公民館や生涯学習センター、教育委員会などで様々な講座を開講されていらっしゃると思いますが、講師の採

用に当たっては、専門的な知識・技能を有する住民の方々を講師として活用されていますか。あてはまるものに☑を付けてください。

- ア：活用している
- イ：活用していない
- ウ：今後、活用したい

回答結果 回答数 32



分析

専門的知識や技能を有する地域住民が講師として活用されているかどうかを問う設問であるが、84.38%の施設で活用している実態が出た。当協会認定の学習指導員が、地域で講師活動をするにあたって、大変心強い結果ではある。「今後活用したい」と回答したものを含めると93.75%の高率である。

質問項目

5. 講師の養成

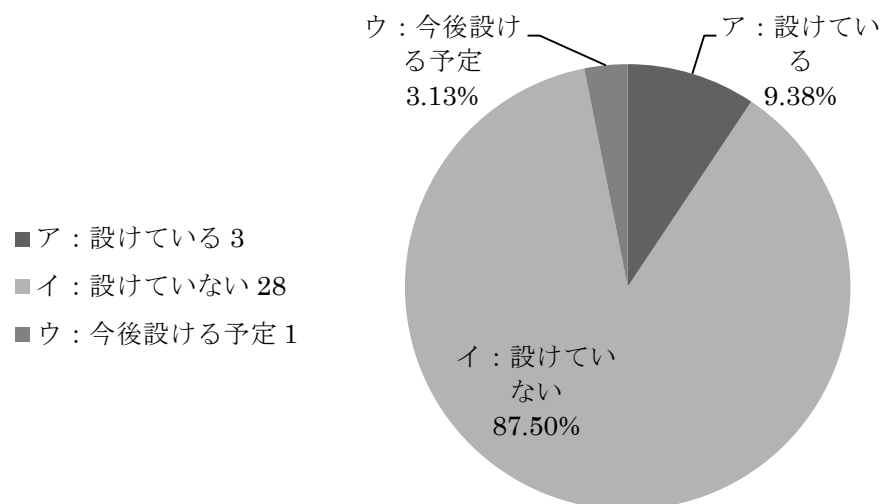
貴所では、市民講師養成講座やボランティア講師養成講座など特別な講師養成のための機会を設けていますか。あてはまるものに☑を付けてください。

- ア：設けている
それはどのような内容ですか。

- イ：設けていない

ウ：今後設ける予定

回答結果 回答数 32



「ア」と答えた3件の回答で、具体的な内容について以下の回答が得られた。

- ・講師力養成講座
- ・自主講座の実施希望者を募集し、開催期間、開催場所等の条件を調整した上で講座を開催する。

分析

「ア」の「設けている」と回答したのは3件あり、全体の9.38%となるが、前質問で、地域住民を講師として活用していると答えた27件対比では11.11%となる。「設けていない」と回答したのは87.50%、前問の住民の講師活用では約85%が講師として活用しているが、施設自体では、講師育成をしていない実態が現れた。「教える力」を身に付ける当協会の学習指導員講習がそれぞれの施設で行う指導者養成講座として採用してくれることを期待したい。

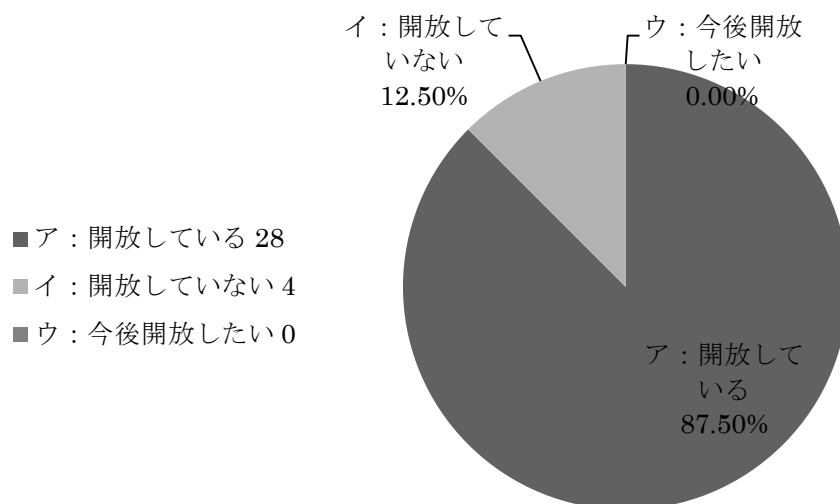
質問項目

6. 施設の開放

貴所においては、住民の方々の自発的な学習活動に教室や会議室等のスペースを開放していますか。あてはまるものに☑を付けてください。

- ア：開放している
- イ：開放していない
- ウ：今後開放したい

回答結果 回答数 32



分析

生涯学習センターなどは、地域での生涯学習の振興を図る目的で設置されているのであり、「開放している」と回答を得たのは当然であるが、現在開放していないと回答した4件（12.50%）もある。教室の開講や講師として活動する際に、活動の場が開かれていないことは活動の障害となりかねないだろう。前回（2016年）の調査の際は、20%だったが今回は12.50%だったことは、施設の開放が少しながら進んでいると思える。

質問項目

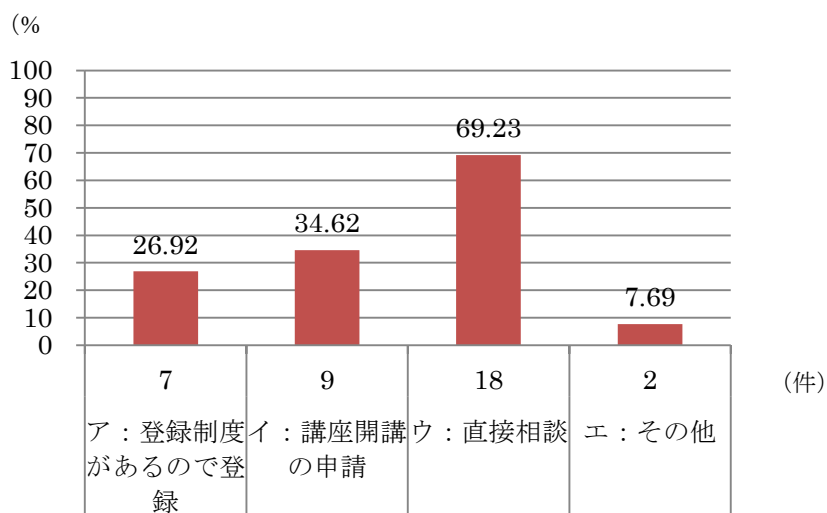
7. 学習指導員活用のためのアプローチ方法

当協会が認定する学習指導員は、様々な分野において卓越した知識、技能をお持ちの方で、なおかつ実践的な指導方法をも身に付けられた指導者です。貴所で、あるいは貴地域での指導活動を希望する場合のアプローチ方法を教えてください。あてはまるものに☑を付けてください。

- ア: 指導員としての登録制度があるのでそれに登録
- イ: 講座開講の申請
- ウ: 直接相談
- エ: その他

回答結果 回答数 31 複数回答あり 無回答 1

アプローチ方法 (複数回答あり)



分析

質問4で問うた講師の活用割合は84.38%である。

講師活動を後押しする体制の一つとして講師の登録制度があるわけだが、この制度は全体の26.92%しか設置されていない。講師活動を希望する者は、活動のための手続き、手順について直接、施設などの担当者に問い合わせたり相談をしているのが中心だ。

住民側、施設側、講師候補者側それぞれが使用しやすい登録制度を作り、様々な形で周知し、生涯学習を盛り上げる必要があるのではないだろうか。

質問項目

8. 地域住民の望む講座テーマ

地域の方々はどのようなテーマの教室や講習を望んでいますか。望まれているものがありましたらその内容をご記入ください。

回答結果

地域の方々ができるようなテーマの講座や教室の開設を望んでいるのか、生涯学習担当者に質問したところ14名から回答があり、合計34講座が挙げられた。18名は無回答であつ

た。挙げられたテーマは以下の通りである。希望の多い順に並べ替えた。

		テーマ	内容
1	歴史	歴史	地域の歴史など
2		歴史	長崎学、キリスト教
3		歴史講座	
4		地域の歴史	地域の歴史について学ぶ
5		地域歴史講座	地域の流れと現状をより正しく把握し、未来につなげていく。
6		地域の歴史講座	郷土史、史跡の現地学習など
7		地域の民族、文化講座	伝統芸能、文化財、農業など
8		地域の担い手づくり	地域活動の中心となり自ら進んで行動する人を育成することが求められている
9		地域活性	
10	健康	身体を動かすもの	
11		健康について	軽体操、リズム体操
12		健康に関わる講座	
13		健康	終活について
14		健康体操	運動を通して健康的な体作りをする
15		健康について	日々続けられる運動や習慣・医療の最新情報
16		医療・健康	
17		体操	健康ストレッチ、ヨガ
18	暮らし	料理に関わる講座	
19		料理	
20		子育てに関わる講座	イライラ解消
21		親子で楽しむもの	
22		教育・育児	
23		防災関係	現在、炊き出し方法を検討中なので、大量炊き出しなどの知識を求めている。
24		生活に役立つ内容の講座	
25		介護・援助	
26	語学	語学	英会話・韓国語・中国語
27		語学	
28	教養	文学講座	文学鑑賞、作家など
29		文学に関する講座(作家etc)	
30	その他	アクセサリ作り	ビーズなどのアクセサリを作る
31		歌	コーラス
32		家庭菜園・ガーデニング	野菜を育てるための土づくり・花と緑を長く鑑賞するコツ
33		折り紙、絵手紙、トールペイント、茶道、詩吟など様々なテーマで講座を開催している。今後も当センターでは「名人・達人」によるジャンルを問わないミニ講座を開催し、地域の方々の学びの機会を提供していきます。	
34		ビジネス・健康等	

分析

希望する講座で、最も多かったのが歴史関係、それも地域に密着したもので、地域の歴史を学ぼうとする者たちが多いことがわかる。次に多いのが健康に関するもの、及び暮らしに関するテーマのもの。次いで語学、教養と続く。下位にはアクセサリ作り、歌、園芸など続くが、下位の講座はすでに多くの講座が開講中であることから、新たな希望講座として現出していないのではないかと推察される。

質問項目

9. ICTの活用状況

貴所では生涯学習活動のために、ICT(情報通信技術)を活用していらっしゃいますか。具体的には、インターネットの活用、電子教材を使つての学習、メールやアプリでお仲間との交流、パソコンやタブレット、携帯端末からアクセスできる学習システムな

どのことをいい、今後の学習スタイルの主流となると考えられています。学校教育では盛んに導入が始まっていますが、生涯学習の分野ではこれからといった状況です。あてはまるものに☑を付けてください。

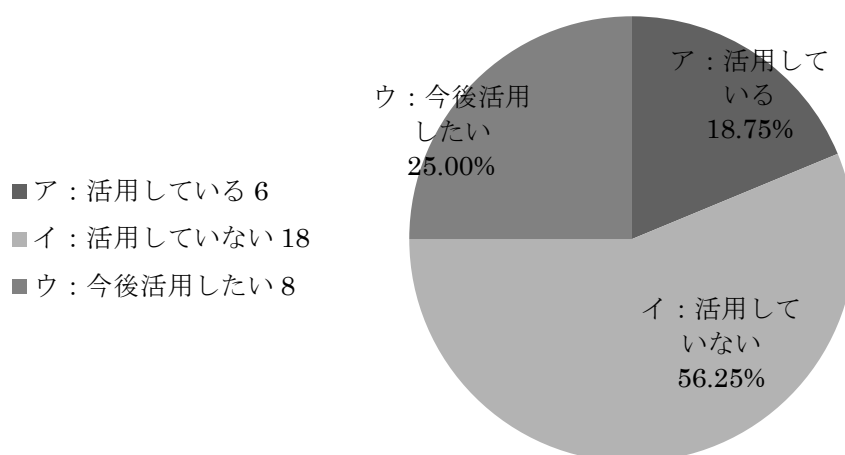
ア：活用している

具体的には _____

イ：活用していない

ウ：今後活用したい

回答結果 回答数 32



「ア」の回答の中で、具体的な活用の仕方に回答したものは5。その内容は以下の通りである。

- ・オンラインでの英会話教室
- ・パソコン講座
- ・タブレット活用講座、excel word の講座、はがき作成等
- ・インターネットによる情報検索サービス（学習情報提供システム）により県内の学習機会に関わる情報を提供している。
- ・放送大学

分析

この設問では、インターネットやメール、あるいは情報機器を、生涯学習の現場でどのように活用しているかを問うものである。「活用している」が6件（18.75%）、「活用していない」は18件（56.25%）、全体の半数を占める。生涯学習センターが独自ホームページを設置していないとか、教室や講座単位で受講生と指導者との連絡事項が完結して更

なる広がりが必要としていないとか、パソコン等の設置がなされていないとかいくつかの理由があるだろう。今後の活用に期待したい。

質問項目

10. 学校や地域との連携

文部科学省では、学校・家庭・地域住民が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整えるための「学校支援地域本部事業」や、土曜日の豊かな教育環境の実現のために官民協働による「土曜日教育ボランティア運動」などを推進していますが、これらの事業にどのように関わっていますか。あてはまるものにを付けてください。

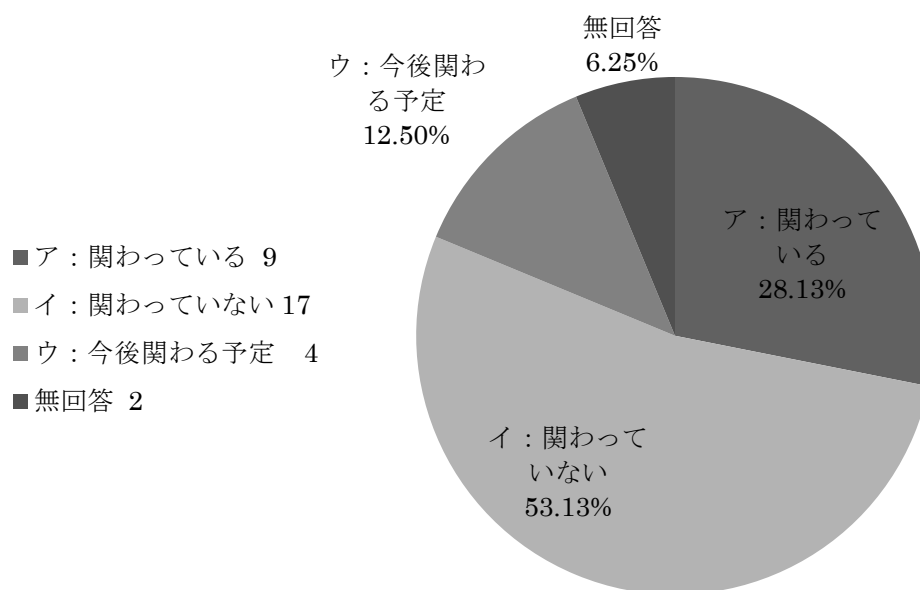
ア：関わっている

その内容_____

イ：関わっていない

ウ：今後関わる予定

回答結果 回答数 30 無回答 2



「ア」の回答の中で、具体的な内容を答えた者は 8 件。内容は以下の通りである。

- ・ボランティア学級の事業の一環として、ふれあい弁当作りとして、中学校の生徒と地域住民とのふれあいを大切にしている。
- ・学社連携事業 小学校、幼稚園、子供会育成会共済事業
- ・教育委員会の為、直接関わり実施している。

- ・事業に要する場所の提供
- ・学校支援地域本部事業の事務局
- ・青少年対象のものづくりや体験講座の実施
- ・社会教育・生涯学習入門講座等で取り扱っている。
- ・コーディネーター養成講座・教員を対象とした連携講座

分析

この設問では、行政と地域、学校との協働がどの程度実施されているか調査しようとしたものである。

回答の多くは地域と学校の連携が中心である。教育委員会や公民館、生涯学習センターが今後更なるコーディネートをされることを大いに期待したい。

アンケートのまとめ

本アンケートでは、生涯学習の振興を図る上で、一つの学習手段としての通信教育がどの程度認知されているだろうか、その調査をするために、生涯学習の現場で様々な業務に携わっている担当者に回答をお願いし、また、当協会が認定している学習指導員の方々が地域で学習支援者として活動しようとする時に、その受け皿である教育委員会や生涯学習センターの受け入れ態勢は実際どうなっているのかを探るのが目的であった。

質問項目は少なく、より詳細なデータ収集はできなかったが、質問3：「通信教育の有効性」、質問4：「住民の講師活用」、質問6：「施設の開放」においては、大変喜ばしい回答を得ることができた。

質問3：「通信教育の有効性」では、全体の93.75%が、有効だと回答している。学ぶ側の住民からではなく、生涯学習を主導している施設の担当者がそのような考え、意識を持っていると考えていいだろう。通信教育事業者にとっては大いなる力となるであろう。

質問4：「住民の講師活用」では、地域住民の方々のスキルを活用し、講師として教室や講座を開いているかどうかの問いに対して、全体の84.38%の割合で活用しているとの回答が得られた。それぞれの施設でどのような講座が開かれているのかは、本アンケートでは分からないが、住民の要望と、学習指導員のそれぞれの専門分野がベストマッチすれば、行政や生涯学習センターのコーディネートの下、すぐにでも学習指導員が活動できる下地はあるということだ。

また別の質問6：「施設の開放」では、全体の87.50%がすでに解放されているとの回答を得た。有料、無料はともかく活動の「場」の存在は大きい。